

～公共施設のあり方を考える～

中央公民館周辺エリア

公共施設再編研究ワークショップ



皆さんの身近にある「公共施設」。どれくらいの施設があり、維持管理にどれだけ費用がかかるのか、知っていますか。今、「公共施設のあり方」は全国的にも課題となっています。問い合わせ／総合政策課（内線2236）



市では、今後の人口減少と人口構造の変化に対応した持続可能な公共施設のあり方について、前橋工科大学 堤研究室を中心とするプロジェクトと共同研究を進めています。今回、多くの公共施設（中央公民館・鴻巣児童センター・中央児童公園・鴻巣東小学校・鴻巣中学校・鴻巣女子高等学校）が集まり、施設の老朽化が進む「中央公民館周辺エリア」をモデル地区として、施設単体ではなく、「エリア」における公共施設の再編案を考えるワークショップをプロジェクトと協働で開催しました。

公募による市民のほか、対象施設の利用者、エリア内の学校の児童・生徒、町内会長、商工会や鴻巣北本青年会議所のメンバーが5グループに分かれ、「地域に必要な公共施設」について話し合いました。

考え方のポイント

①自分の家のように考える

自分の家を建てたり、改築するときと同じように、供給（大きさ）・質（設備・機能）・財務（予算）のバランスが大事

②必要な「モノ」ではなく、やりたい「コト」から考える

例えば「図書館（モノ）が欲しい」という考えから「本を読む・借りる機能（コト）がほしい」という考え方をする

③いろいろな意見があることを理解する

性別や年齢、仕事などによって、必要な施設や設備、利用したい時間帯も違うということを理解する

第1回 「現場を知る」 6月9日、39人参加

- ◆公共施設のあり方に対する基本的考えを学ぶ
- ◆市内で行ったことがある公共施設を書き出す
- ◆施設見学 写真は中央児童公園を見学している様子
実際に歩くと「木が多い」「段差がある」などの気付きも

【主な気付き】

- 利用したことがない施設が多い
- 多くの施設が老朽化している
- 施設ごとに申請方法が違う



市内の公共施設は？ 約160施設（建物が無い施設・道路や下水道などのインフラを除く）あり、床面積の合計は約35万㎡。市民1人あたりの保有面積に換算すると約2.8㎡となり、県内40市平均（約2.26㎡）より高い水準です。



第2回 「何をどうするか考える」 6月16日、35人参加

◆エリアの課題を洗い出し、解決方法を考える



公園を明るく、利用しやすく

カフェや勉強スペースの整備を

幅広い世代が集まれる施設に

学校と児童センターなどの連携を



地図を広げて案を出し合う

第3回 「考えを形にする」

6月30日、32人参加

第4回 「お互いの考えを知る」

7月14日、35人参加

◆施設再編のコンセプト（キャッチフレーズ）を考え、施設のあり方について発表（下表で一部紹介）

コンセプト	提案説明	工夫など
グループA (小・中学生) 大人から子どもまで 楽しみを学ぶ場	<ul style="list-style-type: none"> ■芝生で遊んだり、飲食やマンガ、ゲームを楽しめる場所 ■放課後に安心して友だちと過ごせる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ■Wi-Fi(ワイファイ)の設置、校庭・公園の芝生化 ■介護施設や駄菓子屋などさまざまな世代が利用する施設を配置
グループB (高校生) (大人+子ども)×地域= 結びつき	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもから大人まで、さまざまな人が使える施設 ■地域の結びつきが自然と生まれる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ■ツリーハウスなど魅力的な遊具を設置 ■各学校合同の天文部をつくり、プラネタリウム運営 ■地元の方による食事の提供
グループC (20~40歳代) 共に育む「共育エリア」	<ul style="list-style-type: none"> ■児童館+公民館+商工会館の複合施設で、新しい使い方 ■鴻巣のイベント情報や魅力の発信拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもを見守るカフェスペース ■放課後児童クラブを小学校内に設置 ■施設の運営を商工会と連携
グループD (30~60歳代) 幸ノ巣だよ!!全員集合	<ul style="list-style-type: none"> ■施設目的を広く捉え、施設の集約化を段階的に図る ■施設の複合化で、利用者層を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットで施設利用予約 ■小・中学校を集約し、放課後の子どもの居場所を確保(管理・運用を一体化)
グループE (60~70歳代) コミュニティサロン	<ul style="list-style-type: none"> ■地域住民や利用者が運営に関わる ■サークル活動を活性化させる発表の場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者主体の運営委員会を設置 ■人が集まり「しゃべる」空間 ■空き教室を利用したサークル活動



公共施設の維持・管理の
課題とは？
次ページへ続く

これらのたくさんの提案は、公共施設のあり方について、参加者自身が「自分のこと」として、この場所でやりたいことを、お互いの意見を理解・尊重しながら話し合った成果ではないでしょうか。

このような取組は、将来における公共施設の再編手法のひとつとして捉え、今後も市民協働による地域課題の解決に活用していきます。

